

令和8年度 中学生海外派遣事業 報告書



■ 令和 8 年度中学生海外派遣事業 派遣者名簿

No.	学校・学年	氏 名
1	南那須中学校 1 年	わかまつ 若松 はる い 春 亥
2	南那須中学校 2 年	しおた 塩田 り な 理 永
3	南那須中学校 2 年	くりた 栗田 る い 琉 衣
4	南那須中学校 2 年	とみた 富田 りん 凜
5	烏山中学校 1 年	おおぬき 大貫 み れい 美 玲
6	烏山中学校 1 年	かわまた 川俣 み ほ 美 歩
7	烏山中学校 2 年	み た 三田 さくや 朔 也
8	烏山中学校 2 年	もり 森 ゆう き 有 輝
9	烏山中学校 2 年	よしだ 吉田 なぎ 風
10	烏山中学校 2 年	こみね 小峰 こうし 煌 史
-	随行（学校教育課職員）	しばた 柴田 てつろう 哲 朗
-	随行（学校教育課職員）	おおたけ 大竹 な つき 菜 月

南那須中学校 1年 氏名 若松 春亥

①個人課題とその成果

私の個人課題は、日本と海外の学校と普段の生活の違いについて知り、比較することです。
日本と海外の違いを知ること、日本で当たり前になっている生活が海外では、全然違うことを知りました。日本ではあまりしないこと、例えば学校でバーベキューをするなどです。違う歳の人達とも、一緒に交流をすることができました。
オーストラリアでは自主的に活動することが大切でした。日本では集団活動が多いですが、自分から活動することもできるようになりたいです。

②印象に残った出来事。学び、気づき。

オーストラリアの学校では、午前中の授業は2コマで1時間40分ずつでした。午後も2コマで50分ずつでした。日本とは違い、午前中は1コマ終わると、「モーニングティー」と呼ばれる30分ほどおやつをたべる時間がありました。おやつといっても、スナック菓子だけでなくセロリやきゅうり、人参などの野菜を食べる人もいました。他にも週に1度集会があり、売店で売られたシェイクなどを飲みながら参加できるようでした。集会の日にはクラス活動のような遊びをしました。
また、ホームステイ先ではご飯などは自分達でよそう、自分達で用意するなど自主性が必要でした。他にもお風呂はトイレと一緒に部屋にありました。

③今後の目標や活用法（この経験をどう活かすか、次に挑戦したいこと 等）

英語があまり伝わらない事が多くありました。しかし、自分の知っている英単語を繋げて伝えたり、ジェスチャーで伝えたりするなどして、相手に伝える事ができました。また、どうしても伝わらないときなどに、現地の生徒さんが翻訳機をサッと取り出して翻訳してくれてとても助かりました。
私はこの出来事を通して、海外の方以外でもまちで困っている人がいたらすぐに助けられるような人になりたいと思いました。さらに、海外の方との交流を深めていきたいです。
また、オーストラリアでは節水の意識がとても高かったです。日本も節約の意識が高いですが、節水の意識も高めたいです。

南那須中学校 2年 氏名 塩田 理永

①個人課題とその成果

私が渡航前に掲げた個人課題は、日本とオーストラリアの日常生活を比較することです。理由は、現地でしか体験できない生活や文化に触れ、多様な価値観の理解を深めるためです。ホームステイや学校生活を通して、水資源の使い方や食文化（食生活）など、日本とは異なる生活習慣を実際に体験し、多くの違いがあることを学びました。

特に、学校生活では、日本にはない「お菓子タイム」があることに驚きました。友達同士で楽しく会話する時間が多く、学校生活の雰囲気も日本とは違うと感じました。実際に現地の学校生活を体験したことで、文化や習慣の違いを身近に感じ、それぞれの良さを認めることが大切だと学びました。

②印象に残った出来事。学び、気づき。

私が一番印象的だったのは、住宅の脇によく見られる大きなタンクです。オーストラリアは、資源をととても大切にしており、屋根に降った雨水をその大きなタンクに貯めて再利用しています。地域によっては干ばつや水不足が問題になっており、水を大切に使う意識が強いためです。日本では、蛇口をひねれば、水を自由に使うことができ、それが当たり前だと思っていましたが、水を限りある資源として節水を意識することが大切だと気づきました。

さらに、環境や資源を守るために、一人ひとりができることを考えて行動することの大切さも学びました。

③今後の目標や活用法（この経験をどう活かすか、次に挑戦したいこと 等）

今後は、海外派遣事業で学んだことを日常生活で活かしていきたいです。特に、水や食べ物など、普段当たり前に使っている資源を大切にし、無駄を減らすことを意識します。また、ホームステイを通して、異なる文化や考え方を知ることの楽しさも学びました。

これからも海外の方々との交流を大切にしながら、実践的な英語の学習に取り組み、日本の文化や魅力を海外の方々にわかりやすく伝える「橋渡し役」として活躍できるように励んでいきたいです。

①個人課題とその成果

私の個人課題は、日本とオーストラリアの文化の違いを知ることと、英語で積極的にコミュニケーションをとることです。

現地では、学校生活や、ホームステイ先での生活を実際に体験したため、日本との違いを多く知りました。特に、時間をあまり気にせず行動していることには驚きました。そのため、相手の文化を尊重することを、今まで以上に大切にしたいと思いました。

また、ホストファミリーや生徒と積極的に英語で話すことができました。簡単な表現で会話をしたり、相手の言っていることを理解したりすることができました。これからは、もう少し話せるようになれるよう努力したいです。

②印象に残った出来事。学び、気づき。

印象に残った出来事は、ホームステイ先でのご飯です。

朝ごはんはシリアルでした。私は、朝ごはんにシリアルを食べないので、大きな違いだと思いました。また、学校でのお昼ごはんはお弁当でした。給食が出ないことには驚きました。そして、食べる場所が自由だったことは日本とは違いました。夜ご飯は、ホストファミリーに作ってもらいました。一番美味しかったのは、手作りのハンバーガーです。人生でいちばん美味しいハンバーガーでした。他の日には、手作りのピザとフライドポテトが出ました。日本ではあまりない夜ご飯のため、日本との文化の違いを学ぶことができました。

③今後の目標や活用法（この経験をどう活かすか、次に挑戦したいこと 等）

私は、オーストラリアに行って、異文化を尊重することの大切さがわかりました。これからの学校生活では、自分の意見と相手の意見が違ってても、お互いの意見を尊重して、仲良く協力していきたいです。

また、挑戦したいことは英語をもっと話せるようになることです。現地では返事をするしかできなかった場面もありました。

今後はこの経験を活かし、自分の意見をしっかりと伝えられるようになりたいです。そのために、英語の勉強を頑張ることが大切だと思います。学校の授業では自分から積極的に発言して、長い文章を話せるようにしていきたいです。そして、将来はまた海外に行って、たくさんの人と楽しく話したいです。

南那須中学校 2年 氏名 富田 凜

①個人課題とその成果

私の個人課題は水の使い方の違いについて学ぶことです。オーストラリアで私が使用したトイレや空港のトイレもほとんどのトイレが電動式ではなく電気を使っていないトイレがほとんどでした。どうして便座も冷たくなってしまうしウォシュレットも使えなくなってしまうのに、電気を使っていないのかと疑問に思いました。そこでオーストラリアのトイレがなぜ電気を使っていないトイレが多いのかということについて調べてみました。すると「水資源の節約を優先している」ということがわかりました。

そのことから普段当たり前に使っている水でも水道代もあって制限もあるということをもう一度よく考えさせられました。

②印象に残った出来事。学び、気づき。

私が印象に残ったことは、現地の生徒が、とても交流的ですぐに受け入れたことです。あまり英語が得意ではない私でもすぐに仲良くなることができました。そのためオーストラリアの学校では、現地の生徒や、今回のメンバーとともに特に不便に感じることもなく勉強に育むことができました。

また、現地の学校の生徒は、とても寒い中半袖や半ズボン、スカートなどで楽しそうに普通に過ごしていたため、自分の中ではとても驚きました。

③今後の目標や活用法（この経験をどう活かすか、次に挑戦したいこと 等）

今回の派遣事業を通して、私は英語に苦手意識がありましたが、簡単な単語や表情、ジェスチャーで、したいことや、聞きたいことを伝えられるということを学び、楽しく過ごすことができました。

しかし、英語がもっと喋れていたらもっと楽しかったのかもしれない、と感じてしまい少し後悔しています。

そのため、この機会を通して、もっと英語の勉強に励み、自分から困っている外国人観光客の方々に手助けができたらいなと思いました。

烏山中学校 1年 氏名 大貫 美玲

①個人課題とその成果

・ 個人課題…日本とオーストラリアの生活風景の違い	
理由：生活風景は現地にはいかなないと分からないことがあるから。	
・ 成果……………印象に残ったことを書いていきます。	
1.街中の様子	同じ：左側通行
	違い：キャッシュレス中心、横断歩道の音
2.家の様子	違い：朝食は各自、お風呂ではなくシャワー
3.スーパーの	違い：「Buy 2 get 1 free」のシステム
様子	物価が高い(例：水の値段が3～5倍)
4.学校の様子	違い：昼食が持参、生徒の学年が一貫

②印象に残った出来事。学び、気づき。

印象に残ったことは、日本の学校とオーストラリアで行った学校の様子に大きな違いがあったことです。朝食を学校で買うことができたり、お菓子を食べることが出来る時間があったりしたことが特に印象的でした。
また、私たちはオペラハウスに行きました。空と海の青の中にある白がとても映えていたことをよく覚えています。オペラハウスの屋根にはベージュ色のタイルも使われていることを知り、驚きました。そして、オペラハウスは3つの建物からできていること、建設に14年もかかったことを知って、新たな学びを得ることができた訪問でした。

③今後の目標や活用法（この経験をどう活かすか、次に挑戦したいこと 等）

これからも英会話を頑張って身につけていき、そして、世界の様々なことを知って、自分の可能性を広げていきたいです。そのためには、積極的に学ぶ姿勢が大切だということを今回の派遣学習で知ることができました。今回の経験を踏まえて、たくさんの国の文化や人々について知り、国際的で物事を俯瞰的に見られるような人間になりたいです。
次に海外に行くときには、観光スポットだけではなく、生活風景や人々の様子にももっと目をむけてみたいです。その国のことをより知ることができるきっかけになると思うからです。
今後も、1回1回の機会を大切に、日々を過ごしていきたいです。

烏山中学校 1年 氏名 川俣 美歩

①個人課題とその成果

私の個人課題は日本とオーストラリアでの自然やその生き物、人々の生活について比べることです。

シドニー市内は街の人々が走れるように幅が広い歩道で、その周りには木が沢山並んでいました。また、建物にはストリートアートが描かれていました。学校では午前
にモーニングティーという時間があり、30分間のお菓子を食べたり運動したり外に出
て散策したりすることができました。家に入るときは靴のまま入りました。ホストフ
ァミリーの方が作ってくれた昼食は、パンを使うサンドウィッチや冬の乾燥に強い果
物を入れてくれました。現地に行って時間を過ごすことで、日本との違いを身をもっ
て感じるすることができました。

②印象に残った出来事。学び、気づき。

私が印象に残った出来事は2つあります。

1つ目は現地の学校の最終日にBBQでソーセージを焼いてパンに挟んで食べた
り、木の枝にパンの生地を巻き、焼いてチョコを入れて食べたりしたことです。日本
の学校ではなかなかできないことなので学校でできて楽しかったです。

2つ目はホストファミリーの方が色々な場所に連れて行ってくれたことです。ブル
ー・マウンテンズやスリー・シスターズ、滝や飲食店に連れて行ってくれました。ス
リー・シスターズは高さ約900m前後の3つの砂岩柱です。道を歩いていくとスリ
ー・シスターズのふもとまで行けて岩を下から見ることができ、貴重な経験の1つに
なりました。

③今後の目標や活用法（この経験をどう活かすか、次に挑戦したいこと等）

私は英語が得意ではなかったけど、話していることが伝わらないときには、単語を
並べたりジェスチャーをしたりしながら現地の方々とコミュニケーションをとりまし
た。帰国した時には出国したときよりも英語が少しできるようになりました。そし
て、現地に行って楽しく英語を学ぶことができました。

この機会学んだ英語を授業の活動などでより伸ばしていきたいです。また、外出
先で迷っている外国人の方がいたら積極的に声をかけてあげるなどをして、この経験
を活かしていきたいです。

次に海外に行く機会があったら、今回よりも自ら進んで英語を発言できるように、
学生のうちに英語をさらに学んでおきたいです。

①個人課題とその成果

僕は個人課題に、オーストラリアと日本の食の違いを知ることを掲げました。
この個人課題を掲げた理由は、日本には一汁三菜などの伝統文化がありますが、オーストラリアにもそのような文化があるのかどうか気になったからです。
オーストラリアの食事の構成は主菜だけか一つのお皿に主食と主菜が一緒に、日本のように汁物、主菜、副菜、主食、と分かれていないことに驚きました。
また、学校でのバーベキューでは、生地を木の棒に巻き付けて焚き火で焼いて食べるダンパーと呼ばれる伝統的なパンを食べました。学校でバーベキューが行われることにとっても驚きました。

②印象に残った出来事。学び、気づき。

【特に印象に残った出来事】ホストマザーの仕事場のシーニックワールドという観光施設に見学に行ったことです。64°の傾斜を登る電車に乗り、とても怖かったです。そこは、スリーシスターズが一望できるとても標高が高い場所でした。また、石炭などを採掘していた場所だと聞きました。
【学び】主食は主にパンやパスタの小麦、じゃがいもが食べられています。主菜はカンガルーの肉なども食べられていました。汁物、主菜、副菜、主食とほとんど分かれていませんでした。お寿司の飲食店などがあり、イタリア人店主の店もありました。
【気づき】食事で出てきたお米の形が日本と違い細長かったです。また、粘り気がなくパラパラしていました。

③今後の目標や活用法（この経験をどう活かすか、次に挑戦したいこと等）

オーストラリアではまだ東側の地域でしか食文化を調べなかったけど、いつか、西側の地域の食文化を調べてみたいと思いました。これからも、世界中のいろいろな食べ物を食べてみたいです。そして、鳥山でもオーストラリアの食べ物を作って食べてみたいです。
また、ホームステイ先では「～していいですか」や「～と一緒にしましょう」などの英語が通じて、今まで学んできた英語はあっているんだと身をもって実感することができました。この経験から、今後も英語を頑張っていきたいです。

烏山中学校 2年 氏名 森 有輝

①個人課題とその成果

今回、オーストラリアに行くにあたって、僕が立てた個人課題は、「シドニーには伝統芸能や祭りがあるのか」「それには那須烏山市の山あげ祭とどのような違いがあるのか」「その祭りはどんな人種がどのような文化の中で行っているのか」ということです。理由はただシドニーの祭りや伝統芸能についてスマホやパソコンで調べるよりも現地の人たちと交流して行く中で、シドニーの伝統芸能と那須烏山市の山あげ祭りについて話していけたら良いと思ったからです。

現地では同学年の子たちやホストファミリーの方と伝統芸能や祭りについて話し合ったり日本・オーストラリアでの食生活、日本での学校生活について話し合ったりできました。

②印象に残った出来事。学び、気づき。

スリーシスターズやカトゥーンバカスケードなどの日本にはない自然を体験し、交流していくなかで慣れていきました。5日目の学校に滞在する最終日には恥ずかしがらず自ら英語で話せるようになりました。

初めは英語で話すことや環境には慣れなかったけど、徐々に話せるようになったことがとてもうれしかったです。

ホームステイ先では、イギリスからわたってきた料理や玄関で靴を脱ぐか脱がないかなど、日本とオーストラリアの食文化や生活文化の違いがあることに驚きました。

③今後の目標や活用法（この経験をどう活かすか、次に挑戦したいこと 等）

この海外派遣事業で主に2つのことを学びました。1つ目は、話すことの大切さです。はじめは、現地校の生徒と身振り手振りを使って交流するのが良いと思っていました。しかし、ほぼ身振り手振りだけで話すと、気持ちや伝えたいことは伝えきれませんでした。反省を活かして、次の日から英語だけを使うようにしました。

2つ目は、人に対する感謝を忘れないことです。ホストファミリーの方々はとても優しくしてくれて色々な体験ができました。しかしこのような楽しい生活ができているのはホストファミリーの方々だけでなく僕の家族、海外派遣のメンバーのみんなのおかげであることにも気づきました。そこから、積極的に友達や家族、先生と話し、日々の感謝をこめて生活していきたいと思いました。

烏山中学校 2年 氏名 吉田 凪

①個人課題とその成果

私は今回、オーストラリアへの海外派遣にあたって「食文化の比較」と「現地の人とたくさん英語で話す」という2つの目標を掲げました。
食文化の違いとして、食べるものの違いがありました。日本はお米が主食ですが、オーストラリアではパンが主流で、トーストに「ベジマイト」という独自のペーストを塗って食べるなど、定番の食材や味付けの違いに驚きました。さらにスーパーにカンガルーの肉が並ぶなど、日本では見かけない食材の多さも新鮮でした。
また、翻訳機に頼らず積極的に話しかけた結果、相手の話すことの半分以上を理解でき、自力でコミュニケーションを取る楽しさと成果を実感しました。

②印象に残った出来事。学び、気づき。

一週間のホームステイで印象に残った出来事は、スリー・シスターズやカトウーンバフォールズに連れて行ってもらったことです。スリー・シスターズという岩がみられるスポットには、壮大な景色が広がっていました。カトウーンバフォールズは地元の龍門の滝ほど大きくはないものの、とてもきれいな滝でした。
また、驚いたのは毎食の量がとても少ないことです。行く前は日本人よりたくさん食べると思っていましたが、現地で出会った人々は私よりも全然食べなかったのも、とてもびっくりしました。帰国後には、体重が500グラムも減っていたほどです。海外の食生活は必ずしも大容量とは限らず、家庭や地域によって多様であると学びました。

③今後の目標や活用法（この経験をどう活かすか、次に挑戦したいこと 等）

今回の海外派遣では、ホストファミリーや現地の生徒さんと話す際、翻訳機に頼らず自分の力でコミュニケーションをとることに挑戦しました。この経験を通して、自分の英語が通じる喜びを知ると同時に、もっと深く会話をするための語学力の必要性も痛感しました。今後は学校での英語の学習にさらに力を入れ、いずれは必ず英検1級を取得したいです。
また、今回培った「恐れずに話しかける姿勢」を大切にしながら、実際に英語を話すために、将来またたくさんの海外の国々へ挑戦していきたいです。好きな洋楽や動画で生きた英語を耳に馴染ませながら、次のチャンスに向けて着実に準備を進めていきます。

烏山中学校 2年 氏名 小峰 煌史

①個人課題とその成果

僕は、初めて海外に行くにあたって、「授業スタイルとコミュニケーションの違い」と、「多文化社会とは何か、日本との違いも含め、実際に体験する」という目標を掲げました。

現地の学校で授業を受けて、生徒は先生の発言に多くの質問を投げかけていたと感じました。その他にも、交流の場では、初対面にも関わらずバディの人たちが積極的に話しかけてくれました。そういったところから、オーストラリアの子ども達はシャイな人が少なく、活発な人が多いと感じました。

他にも、たくさんの言語が飛び交っていることを実感しました。

②印象に残った出来事。学び、気づき。

僕は一週間ホームステイして、オーストラリアの食べ物に驚きました。世界的に有名なオージー・ビーフや、マッシュポテトなどを食べましたが、特にびっくりしたのは、日本でいう主食の役割を果たしているものが少なかったということです。

それだけでなく、寒さ対策のための設備が、豊富であるということが印象に残りました。暖房が内蔵されたベッド、暖炉やサウナなど、日本の家にはないようなものが完備されていて、何もかもが新鮮でとてもびっくりしました。

オーストラリアといえば、オージー・ビーフなどの料理が有名ですが、実際に食べてみたところ、とても美味しかったです。

③今後の目標や活用法（この経験をどう活かすか、次に挑戦したいこと 等）

オーストラリアでの経験を通して、英語で自分の考えを伝えることの難しさと楽しさ、そして異なる文化や価値観を理解することの大切さを学びました。

最初は、言葉の壁を感じる場面もありましたが、積極的に話しかけることで少しずつ相手との距離を縮めることができ、自分から行動することの大切さも実感しました。

今後は、この経験で身につけた英語力やコミュニケーション力、積極性を学校生活や日常生活でも活かしたいです。また、海外の人と交流する機会を増やし、将来は長期留学など、さらに自分の可能性を広げることに挑戦したいです。